

校友ひろば

やればできる!

平成26年文卒 行方 紀枝

「英語教師になりたい。」と思ったのは、中学生の頃であったらうか。初めて習う英語が新鮮で、英語を流暢に話す先生に尊敬の念を抱き、憧れていた。

しかし、現実では、大学受験に失敗し、短大に進学し、小学校の教師となった。英語が好きだったことから、校務分掌では、国際理解教育や英語クラブを担当してきた。

最近、やっと日本でも、小学校に英語活動が導入されることになったが、担任が教えることが原則なので、英語の免許はいらな。しかし、児童に教えるには、やはり英語の免許が必要だと考えた。

そこで、高校卒業時からの念願だった英語の免許を取るために、日本大学通信教育部に入学したのである。四月に入学したのは夏休み。だが、レポートを書き、科目習得試験を受け、合格し、単位を取るのが楽しくなってきた。現役教師なので、免許を得るための単位が少なく、一年からずいぶん取得出来た。しかし、免許を得ても、英語の実力はついていない。また、四年制大学進学という長年の思いを果せると、卒業を目指すことにした。スクーリングやメディア教育にもっと早く取り掛かればよかったと後悔した。

スクーリングは、卒業に不可欠なものだが、それ以上に価値があった。そこで出会った人々の素晴らしいこと！身近にはいない頑張り屋ばかりであった。彼らの生き方、考え方に大いに刺激を受けた。

卒業した今は、嬉しいはずなのに、試験勉強や卒論に苦労していた日々が懐かしい。よく頑張ったものだと思える。自分自身を褒めてあげたい。また、学級の子どもたちに常に言っている「やればできる!」という言葉で自分自身で実感した。ところが、今はどうだろうか？卒業したら、英検とTOEICの勉強に専念するつもりが全くしていない。

しかし、千葉県支部の総会に参加した際、大先輩方のお話を伺い、弛んだ気持ちを引き締まられた。日大通信教育部との出会いは人生における大転換点であった。「やればできる!」と信じ、今後何事にも積極的に挑戦したい。

年会費納入者御氏名

(敬称略・卒業年順・Sは昭和・Hは平成)

1	平成25年度分 (房総35号つづき)	合計	54名	119,000円
2	平成26年度分 (平成26年11月30日現在)			
根本一夫	S32文	横田あき子	H4文	
目黒重忠	S42商	浅見勇人	H4法	
宇井弘	S44法	中村憲司	H5法	
阿部治夫	S46法	出射初江	H6文	
仲井博幸	S49法	石渡俊彦	H8文	
堀川正夫	S49経	高橋英雄	H8商	
山本良吉	S50法	熊木房江	H10文	
菅沼勝子	S50文	馬場信彦	H11法	
山崎和夫	S50商	鋪根憲昭	H12経	
井原重之	S51法	香取聖子	H13文	
岩井貫太郎	S51法	伊東淑子	H14文	
大野直子	S51経	小松恵子	H14文	
相田規衛	S52法	斉藤久江	H15文	
中川清光	S52法	阿部文男	H17文	
増田吉子	S53文	行木孝夫	H18法	
宮澤信	S53商	鈴木邦弘	H20法	
高垣むつ子	S54商	清水清	H20法	
寺嶋良夫	S55法	立澤文好	H21経	
内藤隆喜	S55商	吉川美満	H22法	
森博	S57法	浅野松伸	H23法	
白銀冬樹	S57商	高橋順子	H23法	
平野等	S60法	国澤美穂	H23文	
長野美津江	S62文	金子周治	H24法	
榎本章	S63法	寺岡修平	H26法	
林眞晟	S63法	行方紀枝	H26文	
黒岩美代子	S63商	倉村昌子	H26経	
出崎隆治	H4文	市友治	H26商	
		小計	54名	

『教職をめざして』

平成26年法卒 寺岡 修平

三十六歳の挑戦でした。社会人となって15年がたち、自分には何ができるのか考えるようになり、また、何かを始めてみよう。そう考えた日大通信の門をたたきました。

仕事場が新宿であったため、仕事終わりに夜スクーリングに通い、また土日にある短期スクーリングや夏期スクーリングを受講しました。さらには地方スクーリングで三島や名古屋にも行きました。一番苦労したのは、スクーリング前に提出するレポートでした。水道橋の日大の図書館に時間を作ってはこもり、まずは与えられた課題の意味を調べ、そして参考文献を探し、レポート作成をしました。このレポート作成が実はスクーリング前の予習となり、講義を受けるにあたってとても役立ち、授業を受けるのが楽しかったです。

スクーリングを中心に単位を取得していきながら、社会科の教職を目指しました。必要な単位を取得するとともに、やはり教育実習に向けた授業と準備が大変であり、面白かったです。4年次に行う実習のため、その方法や準備の仕方、模擬授業を行いました。初めて模擬授業を行った時の緊張感、忘れられません。ここでの経験と、他の仲間の模擬授業を聞かせてもらったことが、本当に役立ちました。

そして、いよいよ教育実習3週間。母校に行きましたが、担当の先生は自分とほぼ同じ年、副担当は10歳自分より若かったです。それでも新鮮な3週間でした。毎日、翌日の授業の準備を行い、担当の先生に指導をいただく日々で

した。授業がうまくいった時の達成感、うまくいかなかったときの悔しさなど、毎日日本に充実してあり、チャンスがあれば先生になりたいと、より強く思いました。

現在、卒業して以前の仕事に追われる日に戻りましたが、自分の意志でやり遂げたことは、大きな自信となっております。また改めて次の目標ができてきつあります。チャレンジして達成することとは、必ず自分の人生の糧になることなので、新しい目標をぜひ形にして自分を磨きたいと思っております。一緒に卒業した仲間とも、時々あってその頃の話を盛りあがります。

「生涯現役、生涯勉強」この思いで、これからも続けてまいりたいと思います。

『お勧めヴェルサイユ宮殿の庭園』— フランス— 昭和54年商卒 高垣むつ子 2014年11月、久々のパリ行き。この前はいつパリに来たか旅の記録帳を繰く。8年前だった。時の流れは早い。ヘラヘラ暮らしていたら、いつの間にかおばあさんになってしまった(らしい)。

友人に誘われたのを機に、パリを案内することにした。ホテルはどこに行くにも便利で、近くにコインランドリーがあるパリ・リヨン駅前にした。

どこの国にも言える事だが、年々、公共交通の料金が上がって、驚くばかりだ。地下鉄一日券を利用したり、スーパーで買出しして夕食は部屋で取るなどの対策をしないと、懐のユーロやドルは守れない。

今回のパリ行きは、友人にヴェルサイユ宮殿を案内する目的もあった。地下鉄と高速地下鉄(RE R)を使って行く事にした。パ

リ市内のRE Rの駅から、ヴェルサイユ・リヴ・ゴッシュ駅まで、3・45ユーロだった。ゴッシュ駅から600m歩いて行けば宮殿の門まで行ける。宮殿を見学してから、せっかく来たのだからと、広い庭園を巡るプチ・トランという乗り物に乗ってガタゴトゆられながら、マリー・アントワネットになった気分、色付いた木々の間をゆつくりと通って行く。何も変わっていない。ただ静かに流れているだけ。

ヴェルサイユからパリ市内に戻り、エッフェル塔が良く見える対岸のトロカデロに行きたいと言うので、RE Rのエッフェル塔駅まで下車し、トロカデロまで地下鉄で行き、エッフェル塔と対面。薄暮ではあったが、エッフェル塔のライトアップが始まっていて、これを見るのは始めてだった。美しい。朝までずっと見ていたかったが、寒さと腹ペコにはかなわな。さあ、ホテルに帰ろう。夕食は豪華に部屋でお茶漬けだ!

梅咲いて日々新たな生き生きしている小春かな喜寿の祝のメール来る

市ヶ谷キャンパス

俳句 昭和53年文卒 増田 紫泉

校友会事務局 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 FAX 03(3234)5858

